

創設者徳川齊昭が偕楽園に込めた思いとその歩き方

偕楽園は天保13年(1842)に水戸藩第九代藩主
徳川齊昭なりあきが創設しました。

創設の趣意を自ら書き表したのが「偕楽園記」
です。偕楽園記からは次の趣意が読み取れます。



偕楽園記碑拓本

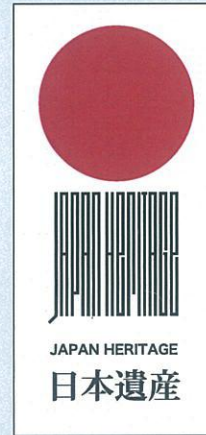
■ 陰陽の調和の大切さ

本文は、大きく前段と後段に分かれています。前段では、天地自然の間に厳存する陰と陽の相反するものの調和によって、万物は健全育成するという原理に基づいて、人間もまた屈伸して身体や心の調和を図り、修養に勤めよと説いています。

偕楽園記には、陰陽の調和を図ることを「いっちょういっし一張一弛」(弓を張ったり、弛めたりすること)を例にして示し、学び勤めかつ遊ぶという勉強と休養のバランスの重要性を強調しています。藩校弘道館は「いっちょう一張」、偕楽園は「いっし一弛」に例えられ、一対の施設として構想されています。

■ 偕楽園は陰陽調和の実践の場

後段は、前段の陰陽の調和「いっちょういっし一張一弛」の理論を実行する場として、この園の成り立ちを述べ、最後に「是れ余(齊昭)が衆と楽しみを同じくするの意なり」と記し、藩主や藩士のみならず庶民にも開放するという趣意で「偕楽園」と命名したことを明示しています。



偕楽園、弘道館をはじめとする水戸市、ほか3市にある近世日本の教育遺産群は、平成27年に「日本遺産」に登録されました。

日本遺産「近世日本の教育遺産群
—学ぶ心・礼節の本源—」
水戸市(茨城県)・足利市(栃木県)・備前市(岡山県)・日田市(大分県)



日本では、近代教育制度の導入前から、支配者層である武士のみならず、多くの庶民も読み書き・算術ができ、礼儀正しさを身に付けるなど、高い教育水準を示しました。これは、藩校や郷学、私塾など、様々な階層を対象とした学校の普及による影響が大きく、明治維新以降のいち早い近代化の原動力となり、現代においても、学問・教育に力を入れ、礼節を重んじる日本人の国民性として受け継がれています。 ※水戸市にある日本遺産 偕楽園・旧弘道館・日新塾跡・旧水戸彰考館跡



偕楽園



弘道館



好文亭表門

創設当時の歩き方 (※裏面をご覧ください。)

創設時に東門はなく、表門から入るのが一般的で齊昭公の趣意を感じながら「陰と陽」の世界の変化を楽しんでいたと考えられます。

f いばらきの公園
Facebook



🐦 いばらきの公園
Twitter



茨城県営都市公園
オフィシャルウェブサイト

